

氏 名：門脇 緑

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 172 号

学位授与年月日：2019 年 3 月 9 日

学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 麻原 きよみ（聖路加国際大学教授）

副査 林 直子（聖路加国際大学教授）

副査 八重 ゆかり（聖路加国際大学准教授）

副査 清水 千佳子（乳腺腫瘍内科科長）

論 文 題 目：外来通院中のがん患者との **End-of-life discussions** における看護と個人的要因・組織環境的要因との関連

#### 博士論文審査結果

本研究は、外来通院中のがん患者との **End Of Life discussion**(以下、EOLd)における看護と看護師の「個人的要因」「組織/環境的要因」との関連を明らかにするために、がん診療連携拠点病院の外来看護師に質問紙調査を行い 709 名を分析した。その結果、「がん患者との EOLd における看護」は、患者の状況の総合的アセスメント、意思決定支援と在宅療養支援、精神的ケアと医師や他職種間の調整・支援を行う包括的なケアであったことを明らかにした。また、「がん患者との EOLd における看護」には看護師の専門職的自律性、医師との協働と満足、道徳的感受性、がん看護経験年数が関連していることが明らかとなった。

審査では、本研究における新しい知見や特徴的な知見について目的から結果、考察まで整合し一貫した記述とすること、重回帰分析に投入する変数を精選し、最終モデルの完成度を高めること、その際に投入する変数を選択した基準を示すこと、EOLd における看護に関連を示した「がん看護経験年数」について、所属部署による違い等、関連する変数を検討することで背景を明らかにすること、考察は、「がん患者との EOLd における看護」の特徴について、先行研究との比較から記述すること、外来看護の組織環境を含む特徴やチーム医療という観点から深めること、関連要因としてがん看護経験年数が関連を示すことの意味について考察することなどが指摘された。これらの指摘に対し、全審査員から修正されたことの確認が得られた。

本研究は、研究者の終末期のがん患者に関する実践および研究の継続に基づいて計画・実施されたものである。また本研究は、複数の段階的な予備研究に基づき行われた周密な研究であり、外来看護師の EOLd を初めて明らかにした新規性の高い研究であることが高く評価された。本研究は、今後、ますます重要となる外来でのがん患者への治療および看護に

大きく貢献できる内容である。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士(看護学)の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。